

# 所信表明の概要

町長は、3月定例町議会の冒頭、62年度に向かつての施政方針を述べました。概要は次のとおりです。

一昨秋以降の急激な円高の進行により製造業では、輸出関連産業を中心として、外需の低下等により経営は悪化の傾向を示しています。又非製造業関係では、円高や原油

空港の65年概成を目指す二期工事の着工等大型プロジェクトが具体化の一步を踏み出し、21世紀へ向けて千葉県が期待されています。



このような背景の中で、町

策、又内外から求められている内需拡大政策への転換により、景気の先行きに期待がもたれてきました。

一方千葉県では、東京湾横断道路の事業着手、幕張新都心計画および幕張メッセの建設着手、上総新研究開発都市構想の第一期事業化計画の決定、その他最も身近な成田

62年度の一般会計予算総額は、二十六億四千万円で、前年度に比較し、一億一千三百万円、率にして4.2%のマイナスイ算となりました。

その原因としては、防災行政無線の本工事が終了したことや町道坂田遠山線事業が残り工事のみとなったこと、また昨年度まで実施してきた木造集会所の建設が本年度はなくなったこと等があげられます。

従いまして、予算の減少といっても、総体的な圧縮、マインナスというわけではなく、例年通り教育や福祉を中心として、行政分野全般にわたって調和のとれた予算編成を成しました。

## 特に力点を置いた事業

**第1点 住民生活の安全を守る施策のために約一億八千五百万円投入しました。** 主なものは、地域防災計画、防災用具の整備、海岸津波対策、防災無線の増設、消防施設の充実、交通安全対策、その他航空機騒音対策関係では、小規模共同利用施設の設置と谷間地域の民家防音施設整備について、公団及び県の方針

を見極め対処していきます。

**第2点 快適な魅力あふれるふるさとづくりを目指して**では、約八千五百万円を投入しました。これは坂田池を中心とする公園計画、町の観光PR、新たに導入した町のイメージカラーのシンボル塔等の整備を重点に行います。

**第3点 人間性あふれる教育施設の充実では、小・中学校、保育所の防音施設が整備後10年を経過し、改修を要する部分が生じており、これと一部増築部分等を合せ約三千万円、その他運動場、プールなどの整備も行います。**

**第4点 道路網の整備では、**町単独事業として行っている坂田遠山線が最終年度にあたります。この残工事に約九千四百万円、新青・東線の面工事、横小から東町の通学道路の改良などの大きな事業、その他一般町道の舗装補修、新設及び排水路の整備等については前年度に対し32%増の約一億五千二百万円を投入し、特に新設の舗装、排水整備を重点に行います。

町道以外の道路問題としては、国及び県に対し、東金有

料道路の東総地区までの延伸運動、国道126号の4車線拡幅改良の促進、県道の九十九里から成東、蓮沼、屋形橋に至る海岸道路の延長促進など関係町村と密接な連携をとりながら乗り遅れないよう運動を展開して参ります。

**第5点 地域の特性をいかにした産業の振興については、**農村総合整備モデル事業を中心として農業問題に取り組んでいきます。特に現在行っている県営かんがい排水事業、湛水防除事業、排水対策特別事業が約二億三千四百万円で、県営により実施されますが、この町負担分が約三千四百万円になります。

米の生産調整に伴うポスト3期対策としては、水田農業確立対策事業が非常に大きな問題となっており、この点については関係機関等の意見を踏まえながら対処していきます。更にカンントリーエレベーター、ライスセンター、及び圃場整備等に対する助成、その他湛水による常習災害地帯の防除対策も考えている。